

業務説明資料

1 委託業務名

ヨコハマトリエンナーレ 2017 広報関連業務

2 履行期間

契約締結日から平成 30 年 1 月 31 日まで

3 業務目的

ヨコハマトリエンナーレ 2017 の認知度の向上と、観光客の誘致など広く集客をはかることができる、効果的な広報を行う。

(1) 来場者動員

広くヨコハマトリエンナーレ 2017 の来場を呼びかけ、前回展以上の入場者数を目指す。特に、初めてヨコハマトリエンナーレに来る入場者の増加を目指す。

(2) 認知度の向上

広くヨコハマトリエンナーレ 2017 を知らせ、2014 以上のメディア露出件数、広告価値換算の獲得を目指す。

4 前提条件

ヨコハマトリエンナーレ 2017 広報業務のうち、事務局が担うものは次の通り。そのため、各業務とも、事務局十分調整のうえ実施する。

(1) 総合的な広報計画の立案

(2) ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズとの連絡・調整

(3) 広報展開を行う素材（図版・出展作家作品情報、ビジュアルデザイン、ロゴ等）の制作、提供

(4) 海外広報窓口及び海外広報計画

(5) 交通・屋外広告

(6) 主要広報物（ポスター、チラシ、チケット等）の版下作成及び印刷

(7) 主催者・事務局の保持媒体を使用した PR

(8) 公式 Web サイト・SNS の制作及び運営

(9) 市政記者への記者発表

(10) 記者会見の会場

(11) ヨコハマトリエンナーレ 2017 に関するメディア露出の広告価値換算

5 業務内容

ヨコハマトリエンナーレ 2017 の会期前から本展期間終了後を含めパブリシティ実施計画を策定し、企画・コンサルティング業務とともに、メディアコーディネーターとして、各種メディアの対応を統一的に行う。

国内のメディア・アート等の専門家、一般市民、デジタルメディアユーザーなど各ターゲットに最適な広報を行う。

【参考資料】「ヨコハマトリエンナーレ 2017 広報スケジュール及び委託範囲」（別紙 1）

- (1) パブリシティ計画の立案・実施
ターゲットごとに広報計画を立案し、実施する。
- (2) 国内の各種メディア対応窓口の設置
窓口業務は主に次の通りとする。
 - ア プレス用画像の管理及び貸出
 - イ 取材の受付、立ち合い
 - ウ 取材コーディネート、作家のスケジュール調整等
 - エ 掲載記事原稿の確認
 - オ 平成 29 年 7 月 1 日～11 月 5 日の、横浜美術館内プレスデスクの設置及び運営。ただし、人員については、最低限①平成 29 年 7 月 1 日～11 月 5 日の期間中 1 名分常設、②繁忙期である 7 月 1 日～8 月 31 日のうち 30 日分をさらに追加で 1 名分配置することとする
- (3) 日常的なパブリシティ活動業務
 - ア 国内のメディアへの掲載・露出依頼
 - イ 記者発表内容やイベント情報等のニュース配信（会期前は月 2 回程度、会期中は週 1 回程度を想定）
- (4) 記者会見運営全般（会場の確保を除く）
記者会見の準備・運営等を行う。

【記者会見実施予定】

- ・第 3 回…開催日／8 月 3 日（木）横浜美術館レクチャーホールにて
 - ※なお、同日にメディア・関係者に向けた内覧会及びオープングレセプションを実施予定
 - ※内覧会・オープングレセプションの内容は委託者が企画
- ア 案内送付リストの作成
 - イ 案内状・リリース資料の作成（デザイン、英語翻訳、印刷を含む）
 - ウ 案内状・リリース資料の封入・封かん・発送作業（送料を含む）
 - エ メディアの誘致・問合せ対応
 - オ 出席者受付・管理
 - カ 進行管理、資料配布、誘導、楽屋のケータリング等の当日運営
 - キ 英語の通訳手配（逐次通訳を想定）
 - ク 記録（日本語文字起こし）
 - ケ 出席者リスト、記事掲載の確認等、事後フォロー

【参考：第 3 回記者会見の想定】

- ・案内・リリース資料送付：約 1500 通
 - ・出席者：約 200 名
 - ・リリース資料：A4／2000 部／両面 15 枚綴り（30 ページ）／フルカラー
- ※第 2 回記者会見で使用した組織委員会保有の約 1,000 件のメディアリストを提供可能。当リストと受託者の保有するリストを合わせて、双方協議のうえ最終的な案内送付リスト 1,500 件を完成させる。
- ※受託者の保有するリストの個人名については特に委託者に提出する必要なし。
- (5) 国内の各種媒体へのアプローチ及び露出プロモーション
メディアへの取材アプローチを行い、もしくは広告枠を買い取り、原稿の作成・入稿、メディアとの調整及び露出を行う。

- ア 首都圏キー局を中心としたテレビ媒体（特に情報番組・ニュース系の特集）の番組及び取材誘致
- イ 効果的なペイド・パブの実施
- ウ ライフスタイル雑誌等への特集掲載
- エ タイアップ記事の企画・掲出

(6) 報告業務

- ア メディア露出に関する定期的な報告書の提出
- イ 記者会見やリリース、イベントなどに関する定期的な報告の提出

(7) 記録作成業務

- ア メディア対応窓口及び受託者のメディアアプローチを通じて露出された新聞、雑誌、フリーペーパーの原本（掲載部分のみの切り抜きでも可とする）の保存及び委託者への提出、且つテレビ、ラジオを含めたメディア露出リストの作成（メディア対応窓口及びメディアアプローチを通じないで（受託者の認知しないところで）掲載されたメディア露出については原本の提出及びリスト作成不要）
- イ 広報活動報告書の制作

(8) その他広報活動を実施するにあたり必要となる業務

6 業務進行上の注意

- (1) 委託業務は、本資料によるほか、横浜トリエンナーレ組織委員会経理規程に基づき実施すること
- (2) 委託業務の進行に関しては横浜トリエンナーレ組織委員会に随時報告すること
- (3) 業務委託における資料・根拠等はすべて明確にしておくこと
- (4) 本資料に明記されないこと及び業務上生じた疑義については、随時協議して進めること
- (5) プレス向け資料の使用言語については、原則日英2か国語対応とすること

7 参考資料

- (1) ヨコハマトリエンナーレ 2017 広報スケジュール及び委託範囲（別紙1）
- (2) 2017年 第1回記者会見資料「案内状」「リリース資料」（別紙2）
- (3) 主要広報物の種類（別紙3）
- (4) 第1弾チラシ（別紙4）
- (5) ビジュアルデザインイメージ：ポスター画像（別紙5）
- (6) 【参考】2014 記者会見資料（別紙6）
- (7) 【参考】2014 来場者・ターゲット分析（別紙7）
- (10) 【参考】2017 ターゲット想定（別紙8）

ヨコハマトリエンナーレ 2017 広報スケジュール及び委託範囲

※期間・内容については目安なので、提案内容により変更の可能性あり

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
			【3ヶ月前】		【1ヶ月前】	【8/4 開幕】	-----		【11/5 閉幕】
		前売券販売促進 (4/20 発売)・プロモーション (会場・作品イメージのみ)				来場促進	中押しプロモ (実作品展示写真あり)		
記者会見	受託者	4/18 記者会見 @王子ホール 作家・作品発表			案内状送付 メディア誘致 記者会見準備	8/3 記者会見 @横浜美術館内 開幕発表・内覧会 リリース資料発送			
広報物	委託者	・ポスター (亀ビジュアル) ・チラシ2種 (A4 巻三折り・A4 チラシ)	→	・ポスター (作品ビジュアル) ・チラシ1種 (A4 観音開き)					→
グッズ	委託者	・販促用ビニール袋 ・販促用ステッカー	→						→
広告	委託者			・横浜市媒体 (広報誌、TV、ラジ オ等) ・海外広告	7月末~8月末 ・交通広告展開 (都内、市内) ・街中サイン、フラッグ掲出 (市内)				
	受託者			・ペイドパブ					
WEB・SNS	委託者	4/18 公式 HP 公開	→ 公式 WEB、SNS(facebook, twitter, Instagram)にて随時情報発信						
	受託者		・ペイドパブ						
イベント	委託者		5月末 第3回ヨコハマラウ ンド開催	→ ・閉幕までに全8回(予定)の公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」を実施。ヨコハマトリエンナーレ 2017 開幕に先立ち、閉幕までの期間に実施される主催イベント。 ・その他横浜市関連イベントにおけるチラシ配架					
その他	受託者			<ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティ計画の立案・実施 (ターゲット別) ・プレスデスクの設置 (問い合わせ対応窓口、掲載記事確認、情報・ニュース配信、記録業務、取材調整) ・国内メディアへのアプローチ・露出プロモーション (テレビ、雑誌、WEB等) 					

報道関係者各位

平成 28 年 9 月 吉日
横浜トリエンナーレ組織委員会

「ヨコハマトリエンナーレ 2017」

記者会見のご案内

展覧会タイトル・コンセプト発表

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

現代アートの国際展として 2001 年に始まった「横浜トリエンナーレ」は、これまで 3 年に 1 度現代アートの最新動向を提示し、国内外の注目を集めてまいりました。

来夏開幕の第 6 回展となる「ヨコハマトリエンナーレ 2017」に向けて、ジャンルや世代を超えた 9 名の専門家から構成される構想会議にて、これからの時代に必要な価値について議論を重ね、このたび、展覧会タイトルおよびコンセプトを発表する運びとなりました。

つきましては、次のとおり記者会見を開催いたします。

ご多忙のことと存じますが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

日時 2016 年 10 月 11 日 (火) 14:00 ~ 15:00 (13:30 より受付開始)

会場 KKR ホテル東京 11 階「孔雀」(〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-4-1)

※記者会見終了後、ティーサービスを予定しております。ぜひご参加ください。

登壇者
(予定)

構想会議メンバー：

スハーニャ・ラフェル (M+美術館エグゼクティブ・ディレクター)

スプツニ子! (現代美術家、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教)

リクリット・ティラヴァーニャ (現代美術家、コロンビア大学芸術学部教授)

養老孟司 (解剖学者、東京大学名誉教授)

※アルファベット順

以下、ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ

逢坂恵理子 (横浜美術館館長)

三木あき子 (キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター)

柏木智雄 (横浜美術館副館長、主席学芸員)

主催 横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

【お問合せ】

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局 広報担当：高橋
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 横浜美術館内
TEL：045-663-7232 (平日 10:00 ~ 18:00) FAX：045-681-7606
E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp

ヨコハマトリエンナーレ 2017 タイトル、コンセプトの発表

横浜市で3年に一度行われる現代アートの国際展、ヨコハマトリエンナーレ 2017（会期：2017年8月4日～11月5日）は、ジャンルや世代を超えたメンバーからなる「構想会議」での議論を経て、タイトルをヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」（英題：Yokohama Triennale 2017 “Islands, Constellations and Galapagos”）に決定しました。

「島」「星座」「ガラパゴス」は、孤立や接続性、想像力や指標（道しるべ）、独自性や多様性など、色々な捉え方のできるキーワードでもあります。このタイトルを手掛かりとして、先行きの見えない複雑な時代に、人間の想像力・創造力をもって、未来への知恵を多くの人々と共に考えていきます。

また、視覚体験に限定されない「対話・議論」、「思考」、「共有・共生」の場づくりを目指し、会期に先立つ2017年1月より定期的に連続会議「ヨコハマラウンド」を開催し、タイトルに関係する諸問題や可能性について議論していきます。

ヨコハマトリエンナーレ 2017 「島と星座とガラパゴス」 Yokohama Triennale 2017 “Islands, Constellations and Galapagos”

会 期：2017年8月4日（金）～11月5日（日） ※第2・4木曜日休場 開場日数 88日間

主 会 場：横浜美術館（横浜市西区みなとみらい3-4-1） / 横浜赤レンガ倉庫1号館（横浜市中区新港1-1-1）

主 催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

構想会議メンバー：スハーニャ・ラフェル、スブツニ子！、高階秀爾、リクリット・ティラヴァーニャ、鷺田清一、養老孟司
逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄（ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ）
（以上、アルファベット順）

本資料についてのお問合せ | 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局（担当：帆足、高橋）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606

E-MAIL press@yokohamatriennale.jp

URL <http://www.yokohamatriennale.jp>



コンセプト

今、世界は、従来の枠組みを超えてネットワークがこれまでになく拡大する一方で、紛争や難民、移民の問題、英国の EU 離脱等で大きく揺れています。また、人間の処理能力を大幅に超えて情報量が氾濫し高度に複雑化した環境の中で、SNS 等の急激な発達による島宇宙化が進み、さらには大国や中央集権の論理に抗うかのような様々な小規模共同体の動きが活発化しています。

こうした状況を背景に、ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、「島と星座とガラパゴス」というタイトルのもと、改めて世界の「接続性」と「孤立」の状況について様々な角度から考えます。そして、多島海のような地域、文化圏のあり方や保守化する世界、閉鎖された環境における独自の進化と多様性、さらには、そうした相反する概念や側面が複雑かつ流動的に絡み合う世界の在り様に対して、人間の想像力・創造力がどのような可能性を拓き得るのか等について思索を巡らせます。

ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、時代の転換期といわれる現在、星を指標に大海原を航海した古の船乗りたちの勇気と、星と星の間に線を引くことで神話的な形象を描き物語を紡いだ人間の想像力・創造力をもって、デジタル的な視点（0と1で構成される世界観）では把握できない世界の複雑さや奥深さ、繋がりを多角的に捉え直し、何を未来の知恵としていくべきなのか、多くの人々とともに考える場となることを目指します。

開港の地、横浜

2017 年は、日本における封建制の崩壊と近代化の起点となった大政奉還から 150 年という年にあたります。横浜は、こうした旧体制の崩壊と日本の近代化を誘引した「開港」の地であり、接続性と孤立というテーマは、その歴史的背景と密接に繋がっています。ヨコハマトリエンナーレ 2017 の企画にあたっては、開港（開国）における様々な物や知識の出会いをイメージして、また、本トリエンナーレが単に現代美術の展覧会にとどまることなく、「対話・議論」、「思考」、「共有・共生」の機会になることも念頭に、コンセプト等を検討する「構想会議」と「ヨコハマラウンド」という連続会議を設けることにしました。

構想会議

「構想会議」は、国内外より 6 名の世代の異なる美術、解剖学、哲学といった各種分野の専門家を迎えて、今夏に始動しました。ディレクターズとともに、既存の思想的な枠組みや専門領域の壁を超えた分野横断的な議論を行い、企画コンセプトや内容決定への反映を進めています。

ヨコハマラウンド

「ヨコハマラウンド」では、展覧会に先立つ 2017 年 1 月から展覧会期終了までの間、より幅広い分野の専門家等を迎えて、< 島 >、< 星座 >、< ガラパゴス > から想起される諸問題や可能性について、シリーズで会議を実施します。また、地域の大学等の教育機関との連携も図る予定です。

2016 年 10 月 11 日

ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ
三木あき子、逢坂恵理子、柏木智雄

構想会議メンバー プロフィール



スハーニャ・ラフェル
(Suhanya RAFFEL)

M+美術館 エグゼクティブ・ディレクター

スリランカ生まれ。香港在住。2016年11月よりM+美術館に着任予定。オーストラリア

のクイーンズランド州立美術館/ギャラリー・オブ・モダン・アートでアジア太平洋地域の現代美術コレクションの形成に携わり、2002年より同館主催のアジア・パシフィック現代美術トリエンナーレを主導。その後、ニューサウスウェールズ州立美術館副館長兼コレクション担当ディレクターを務め(2013-16年)、グッゲンハイム美術館のアジアン・アート・カウンシルメンバー(2009-14年)等要職を歴任。



スプツニ子!
(Sputniko!)

現代美術家、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教

Photo by Tomoya Uehara

1985年東京生まれ。ポストン/東京在住。インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を卒業後、英国国立芸術学院(RCA) デザイン・インタラクションズ専攻修士課程を修了。在学中よりテクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。主なグループ展に「Talk to Me」(2011年、ニューヨーク近代美術館)、「東京アートミーティング うさぎスマッシュ」(2013年、東京現代美術館)など。FORBES JAPAN「未来を創る日本の女性 10人」に選出(2014年)。2013年より現職。



高階 秀爾
(TAKASHINA Shuji)

**美術史家、大原美術館館長
東京大学名誉教授**

1932年東京生まれ。東京大学教養学部卒業。フランス政府招聘留学生として渡仏(1954-59年)。東京大学教授、国立西洋美術館館長等を経て、2002年より大原美術館館長。2015年より日本芸術院会員。専門はルネサンス以降の西洋美術史。日本近代美術についても造詣が深い。『日本近代美術史論』(ちくま学芸文庫)、『ルネッサンスの光と闇: 芸術と精神風土』(中公文庫、芸術選奨文部大臣賞)、『日本人にとって美しさとは何か』(筑摩書房)などの著書多数。2012年文化勲章受章。



リクリット・ティラヴァーニャ
(Rirkrit TIRAVANIJA)

現代美術家、コロンビア大学芸術学部教授

1961年アルゼンチン生まれ。現在、ニューヨーク、ベルリンおよびタイのチェンマイを拠点に活動するタイ人

作家。同世代の作家のなかでも最も影響力のある作家のひとり。オブジェ制作、公的・私的パフォーマンス、教育ほか多様な行為を組み合わせ、メディアの形態にとらわれない作品づくりをしている。コロンビア大学芸術学部で教鞭を執るほか、作家、美術史家、キュレーターで構成されるコレクティブ・プロジェクト「ユートピアステーション」の創設メンバー兼キュレーター。チェンマイを拠点とする教育系・環境系のプロジェクト「ザ・ランド・ファウンデーション」の理事も務める。

Photo by Anette Aurell



鷺田 清一
(WASHIDA Kiyokazu)

**哲学者、京都市立芸術大学学長
せんだいメディアテーク館長**

1949年京都市生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学総長を経て、現職。哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなう。主な著書に『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫、サントリリー学芸賞)、『「ぐずぐず」の理由』(角川選書、読売文学賞)、『「聴く」ことの本質』(ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞)、『哲学の使い方』(岩波新書)がある。現在「折々のことば」(朝日新聞)連載中。2004年紫綬褒章受章。



養老 孟司
(YORO Takeshi)

解剖学者、東京大学名誉教授

1937年鎌倉市生まれ。東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入り、その後同大学医学部教授。1995年退官。人間社会の様々な事象を脳の機能や仕組みと結びつけて評論。『解剖学教室へようこそ』(筑摩書房)、『からだの見方』(筑摩書房、サントリリー学芸賞)、『唯脳論』(ちくま学芸文庫)など著書多数。『バカの壁』(新潮社、毎日出版文化賞特別賞)は、2003年ベストセラー第1位、同年流行語大賞受賞。ムシテックワールド館長、京都国際マンガミュージアム館長も務める。

(以上、アルファベット順)

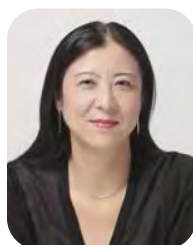
ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ



逢坂 恵理子
(OSAKA Eriko)

横浜美術館館長

国際交流基金、ICA名古屋を経て、水戸芸術館現代美術センター主任学芸員(1994-96年)、同センター芸術監督(1997-2006年)、森美術館アーティストック・ディレクター(2007-09年1月)。第49回ヴェネチア・ビエンナーレ(2001年)で日本館コミッショナーを務め、「蔡國強展: 帰去来」(2015年)を企画するなど数々の現代美術展を手掛ける。2009年4月より現職。ヨコハマトリエンナーレ 2011では総合ディレクターを、2014では組織委員会委員長を務めた。



三木 あき子
(MIKI Akiko)

**キュレーター、
ベネッセアートサイト直島
インターナショナルアーティ
スティックディレクター**

パレ・ド・トーキョー(パリ)チーフ / シニア・キュレーター(2000-14年)、ヨコハマトリエンナーレ 2011 アーティストック・ディレクター等歴任。第46回ヴェネチア・ビエンナーレ「トランスカルチャー」(1995年)、「台北ビエンナーレ: 欲望場域」(1998年)、「荒木経惟: 私・生・死」(2005年)、「チャロー! インディア」(2008年)、「杉本博司: 今日世界は死んだ」(2014年)、「村上隆の五百羅漢図」(2015年)等アジア・欧州にて多くの企画を手掛ける。『Insular Insight』(Lars Müller, 2011年 DAM 建築本賞)等、共著・共編多数。



柏木 智雄
(KASHIWAGI Tomoh)

**横浜美術館副館長
首席学芸員**

専門は幕末から現代までの日本美術。1988年に横浜美術館準備室に入り、同館にて「斎藤義重による斎藤義重展 時空の木ー Time + Space, Woodー」(1993年)、「紫紅と靱彦展」(1995年)、「菅木志雄: スタンス」(1998年)、「李禹煥 余白の芸術展」(2005年)など。共著書に『明るい窓: 風景表現の近代』(大修館書店)、『失楽園 風景表現の近代』(大修館書店)、『はじまりは国芳ー江戸スピリットのゆくえ』(大修館書店)、『通天楼日記 横山松三郎と明治初期の写真・洋画・印刷』(思文閣出版)など。

イメージビジュアル ※ポスター・チラシのデザインはこれをもとに今後展開していきます。



展覧会タイトルの「ガラパゴス」を象徴する存在としてガラパゴスゾウガメをイメージとして取り込み、日本の伝統文様である「亀甲紋」を組み合わせました。また、古代インドの宇宙観を表す「世界亀」から構想を得て、亀の上に横浜の街並みを描きました。

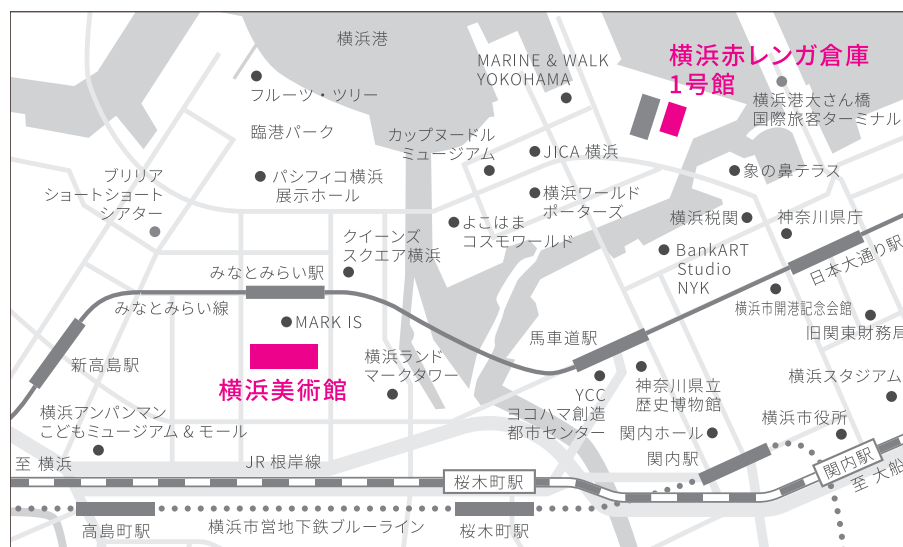
クリエイティブ・ラボ PARTY

本イメージビジュアルは PARTY によるものです。PARTY は、インターネットの進化による社会の「ネットワーク化」と「グローバル化」に対応した、ビジュアル、コミュニケーション、プロダクト、サービス、イベント、コンテンツ、空間など、デジタルの技術を活用したデザインのほか、プロトタイプの研究開発も手掛けるクリエイティブ・ラボです。東京とニューヨークに拠点を構えています。

川村真司 | クリエイティブ・ラボ PARTY クリエイティブディレクター / 共同創設者。数々のブランドのグローバルキャンペーンを始め、テレビ番組開発、ミュージックビデオの演出など活動は多岐に渡る。アメリカの雑誌 Creativity の「世界のクリエイター 50 人」や Fast Company 「ビジネス界で最もクリエイティブな 100 人」、AERA 「日本を突破する 100 人」に選出。

室市栄二 | ビジュアルデザイナー / デザインテクノロジスト。3DCG、モーショングラフィックスそしてクリエイティブコーディングのスキルを駆使したハイブリッドなビジュアル表現を追求している。様々なグローバルブランドのプロジェクトに参加し数多くの国際的なアワードを受賞。日本、サンフランシスコ (AKQA アートディレクター) を経て、2014 年にクリエイティブ・ラボ PARTY New York にデザイン・ディレクターとして参加。

主会場案内



横浜美術館

横浜市西区みなとみらい 3-4-1



撮影：笠木靖之

設計：丹下健三／丹下健三・都市・建築設計研究所
竣工：1989年
構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造
延床面積：26,829㎡

交通アクセス

みなとみらい線（東急東横線直通）「みなとみらい駅」〈3番出口〉から、マークイズみなとみらい〈グランドギャラリー〉経由徒歩3分、または〈マークイズ連絡口〉（10時～）から徒歩5分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」から〈動く歩道〉を利用、徒歩10分。

横浜赤レンガ倉庫 1号館

横浜市中区新港 1-1-1



設計：妻木頼黄
竣工：1913年
構造：煉瓦組積造
延床面積：5,575㎡

交通アクセス

みなとみらい線（東急東横線直通）「馬車道駅」または「日本大通り駅」より徒歩約6分、「みなとみらい駅」より徒歩約12分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」より汽車道経由で徒歩約15分、「関内駅」より徒歩約15分。

横浜トリエンナーレ組織委員会 (2016.9.1現在)

名誉顧問 宮田 亮平 (文化庁長官)
名誉会長 林 文子 (横浜市長)【代表】
 舩井 勝人 (NHK会長)
 渡辺 雅隆 (朝日新聞社社長)

委員 市村 友一 (朝日新聞社企画事業本部長)
 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)
 佐々木建史 (NHK事業センター専任部長)
 澤 和樹 (東京藝術大学学長)
 澄川 喜一 ([公財]横浜市芸術文化振興財団理事長)【委員長】
 高階 秀爾 (大原美術館館長)
 建島 哲 (多摩美術大学学長)
 柄 博子 ([独法]国際交流基金理事)
 中山こずゑ (横浜市文化観光局長)
オブザーバー 木村 直樹 (文化庁文化庁芸術文化課長)

※会長、委員は50音順

横浜トリエンナーレとは

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度行われる現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。

2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。

横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命	横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。				
目標	アートでひらく	ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を越えた理解を促進します。			
	世界とつながる	ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。			
	まちにひろがる	創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。			
行動指針	世界水準	次世代の育成	市民参加	祝祭性	賑わいづくりと経済活性化

これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)	2014年(第5回)
テーマ/ 展覧会タイトル	メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで知ることができるか?—	華氏451の芸術： 世界の中心には忘却の海がある
ディレクター/ キュレーター	[アーティスティック・ディレクター] 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川侯 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オブリスト ベアトリクス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティスティック・ディレクター] 三木あき子	[アーティスティック・ディレクター] 森村泰昌
会期 (開場日数)	9月2日—11月11日 (67日間)	9月28日—12月18日 (82日間)	9月13日—11月30日 (79日間)	8月6日—11月6日 (83日間)	8月1日—11月3日 (89日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア (新港ふ頭展示施設) ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア (新港ふ頭展示施設)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)/1コレクション	65組(79作家)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)*	約35万人(約35万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)	約21万人(約21万人)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚
ボランティア/ サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催:(公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜市 (公財)横浜市芸術文化振興財団 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会

*入場者数は延べ人数

主要広報物の種類

アイテム	サイズ/ 種類	内容	目的	納期
チラシ (日・英)	A4 両面 巻三つ折り	【亀ビジュアル】 ・基本情報 ・交通案内/マップ ・作家情報(詳細) ・図版/キャプション ・協賛情報	全国の美術館へ配布 (アート専門的視点)	2017年4月18日
	A4 両面	【亀ビジュアル】 ・基本情報 ・チケット情報 ・交通案内/マップ ・作家・作品 ・協賛情報	一般配布 (一般向けのわかり やすい内容、イベント 認知向上を図る)	
	A4 両面 観音開き	【主要作品ビジュアル】 ・基本情報 ・チケット情報 ・交通案内/マップ ・作家・作品 ・協賛情報	一般配布 (作品の認知、興味関 心を図る)	2017年6月末
ポスター	B1 縦	【亀ビジュアル】 ・基本情報 ・協賛情報	一般配布 (イベントの認知)	2017年4月18日
	B2 縦			
	B3 横			
	B1 縦	【主要作品ビジュアル】 ・基本情報 ・主要作品 ・協賛情報	一般配布 (主要作品とイベン トの認知)	2017年6月末
	B2 縦			
	B3 横			

※記載内容の基本情報には、主催者、会期、会場、お問い合わせ先、開催概要等を含む。

YOKOHAMA
TRIENNALE 2017
Islands, Constellations
& Galapagos

ヨコハマ
トリエンナーレ
— 2017 —
島と星座と
ガラパゴス

2017
8.4
[fri] — 11.5
[sun]

横浜美術館
横浜赤レンガ倉庫1号館

Yokohama Museum of Art
Yokohama Red Brick Warehouse No.1



2017年夏、世界の現代アートが横浜に

🌐 www.yokohamatriennale.jp | 🐦 @yokotori_

ヨコハマトリエンナーレ2017 島と星座とガラパゴス

YOKOHAMA TRIENNALE 2017 Islands, Constellations & Galapagos

会期：2017年8月4日(金)～11月5日(日)
主会場：横浜美術館 / 横浜赤レンガ倉庫1号館

第2・4木曜日休場

主催：
横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK
朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

4月にアーティスト・作品情報発表予定！公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」は1月からスタート。詳しくは公式ウェブサイトで (www.yokohamatriennale.jp)

横浜トリエンナーレは、3年に一度行われる現代アートの国際展です。6回目となるヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」は、世界の「接続性」と「孤立」の状況について様々な角度から考えます。

いま、世界は、従来の枠組みを超えてネットワークが拡大する一方で、紛争や難民、移民の問題、英国のEU離脱などで大きく揺れています。また、情報が氾濫し高度に複雑化した環境の中で、SNS等の急速な発達による島宇宙化が進み、さらには大国や中央集権の論理に抗うかのような様々な小規模共同体の動きが活発化しています。本トリエンナーレでは、こうした相反する概念や側面が複雑に絡み合う世界の在り様について思索を巡らせます。そのため展覧会に加えて、開幕に先立つ1月から閉幕までの間、幅広い分野の専門家を招いた公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」を実施し、単に現代美術の展覧会にとどまることなく、「対話や議論」、「思考」、「共有や共生」の機会となることを目指します。

先行きの見えない複雑な時代に、人間の勇気と想像力や創造力がどのような可能性を拓くことができるのか、みなさまとともに考え、新たな視点を開港の地・横浜から発信します。

ヨコハマトリエンナーレ2017では、世代や分野の異なる専門家のメンバーで構成される構想会議を発足させ、ディレクターズとともに、既存の思想的な枠組みや専門領域の壁を越えた分野横断的な議論を行い、タイトルとコンセプトを決定しました。

構想会議メンバー



スハーニャ・ラフェル

Suhanya RAFFEL
M+美術館
エグゼクティブ・ディレクター



スプツニ子!

Sputniko!
現代美術家、マサチューセッツ工科大学
メディアラボ助教

Photo by Tomoya Uehara



高階 秀爾

TAKASHINA Shuji
美術史家、大原美術館館長
東京大学名誉教授



リクリット・
ティラヴァーニャ

Rirkrit TIRAVANIJIA
現代美術家、コロンビア大学芸術学部教授

Photo by Anette Aurell



鷺田 清一

WASHIDA Kiyokazu
哲学者、京都市立芸術大学学長
せんだいメディアテーク館長



養老 孟司

YORO Takeshi
解剖学者
東京大学名誉教授



逢坂 恵理子*

OSAKA Eriko
横浜美術館館長



三木 あき子*

MIKI Akiko
キュレーター、ベネッセアートサイト直島
インターナショナルアーティストティック
ディレクター



柏木 智雄*

KASHIWAGI Tomoh
横浜美術館副館長
主席学芸員

*ヨコハマトリエンナーレ2017 ディレクターズ



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE

《問い合わせ先》横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内 TEL: 045-663-7232 FAX: 045-681-7606
E-MAIL: info@yokohamatriennale.jp URL: <http://www.yokohamatriennale.jp>

YOKOHAMA
TRIENNALE 2017
Islands, Constellations
& Galapagos

ヨコハマ
トリエンナーレ
— 2017 —
島と星座と
ガラパゴス

2017
8.4
[fri] 11.5
[sun]

横浜美術館
横浜赤レンガ倉庫1号館

Yokohama Museum of Art
Yokohama Red Brick Warehouse No.1



2017年夏、世界の現代アートが横浜に

www.yokohamatriennale.jp | [@yokotori_](https://twitter.com/yokotori_)



ヨコハマトリエンナーレ 2014

報道関係各位

2014年7月吉日

横浜発、3年に1度の現代アートの国際展。ついに開幕！

ヨコハマトリエンナーレ 2014 「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」

報道内覧会・記者会見・レセプションのご案内

2014年7月31日(木) 12:30～

於/横浜美術館、新港ピア（新港ふ頭展示施設） 受付/横浜美術館

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、横浜美術館、新港ピアにおいて、ヨコハマトリエンナーレ 2014「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」(2014年8月1日(金)～11月3日(月・祝))を開催いたします。

つきましては、本展開催に先立ち、来る7月31日(木)に、下記の通り報道内覧会・記者会見・レセプションを開催いたします。

記者会見では、本展覧会を代表する参加作家をご紹介します。会見後は、アーティストック・ディレクター森村泰昌自らが参加し、マイケル・ランディの作品、300m²の大きさにおよぶ美術のためのゴミ箱《アート・ビン》に作品を投棄するパフォーマンスを行います。

報道内覧会では、横浜美術館エントランス外にて、全長 20mにおよぶ巨大な作品、ヴィム・デルポアの《低床トレーラー》が登場。伝統的なゴシック様式でデザインされた迫力の作品をはじめとした、65組の作家による多様なアート作品がお出迎えます。

ご多忙とは存じますが、是非、ご観覧・ご取材くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時:2014年7月31日(木) 12:30～

内覧会場:横浜美術館(横浜市西区みなとみらい3-4-1)

新港ピア(新港ふ頭展示施設)(横浜市中区新港2-5)

【スケジュール】

12:30～18:00 報道内覧会(受付12:30～17:30)@横浜美術館

14:00～14:45 記者会見(横浜美術館レクチャーホール)

登壇者: アーティストック・ディレクター 森村泰昌

(本展参加作家) ギムホンソック、ヴィム・デルポア、大竹伸朗、毛利悠子

*登壇作家は変更になる場合がございます。ご了承ください。

15:00～15:30 マイケル・ランディ《アート・ビン》作家本人他によるパフォーマンス

16:00～16:15 キュレーターによる展示作品に関するレクチャー@新港ピア

(※新港ピアまでは会場間無料バスが運行いたします)

18:00～20:00 レセプション(受付17:30～)@横浜ロイヤルパークホテル

横浜市長 林 文子 挨拶 他

※14:00～18:00 は一般内覧会が並行して開催されます。

※内覧会場では展示室の撮影も可能です。



マイケル・ランディ
《アート・ビン》2010
サウス・ロンドン・ギャラリー
での展示風景

ご出席頂ける場合には、7月18日(金)までに別紙 FAX 返信用紙にてご返信頂きますようお願い致します。

第5回記者会見／内覧会 取材案内状



【実施スケジュール 詳細】

時間	内容	会場	受付について
12:30～18:00 (受付12:30～17:30)	報道内覧会	横浜美術館・新港ピア 受付:横浜美術館正面入口	受付にて FAX 返信用紙 をご提示ください。 またお名刺をお預かり いたします。
(14:00～18:00)	(一般内覧会)	(横浜美術館・新港ピア)	
14:00～14:45	記者会見	横浜美術館 レクチャーホール	
15:00～15:30	マイケル・ランディ《アート・ピン》 パフォーマンス 参加作家:森村泰昌 AD 他 ※パフォーマンスは 17:00 迄実施予定	横浜美術館 グランドギャラリー	5 分前までにお集まり ください。
16:00～16:15	展示作品に関する レクチャー 林寿美キュレーター	新港ピア 正面入口付近	報道内覧会受付にて お渡しするプレスシ ールをご提示ください。
17:30～18:00	レセプション受付	横浜ロイヤルパークホテル 宴会棟 3 階 鳳翔	報道受付をお通りく ださい。
18:00～20:00	レセプション		★FAX 返信用紙をご提 示ください。

【報道受付について ご注意】

- 必ず次頁の FAX 返信用紙にご記入の上、事前にご返信ください。
- 当日は必ず本案内状封筒、FAX 返信用紙をご持参ください。また会場間移動中もご携帯くださいますようお願いいたします。(報道受付では、FAX 返信用紙の提示が必要となります。)
- 報道受付は横浜美術館にて行います。

【会場間無料バスについて】

- 当日は会場間無料バスを運行いたします。移動の際にご利用ください。
 - 横浜美術館-新港ピア間(移動時間約 10 分)
 - 初便 13:00 横浜美術館発/その後約 10 分おきに出発/新港ピア発最終便 18:00
 - 新港ピアのキュレーターによる展示作品に関するレクチャーにご出席の場合、15:40 横浜美術館発のバスがおすすめです。
 - 新港ピアから横浜ロイヤルパークホテルまでは、横浜美術館行きの会場間無料バスで横浜美術館に戻り、そこから徒歩にてお越しいただけます。(17:20 発のバスのご利用がおすすめです。)
- 会場間無料バスは、一般内覧会のご来場者も利用しております。ご了承ください。

【プレスデスクについて】

- 8 月 1 日(金)より 22 日(金)まで、横浜美術館会場のビジターセンター内にプレスデスクを設置します。
取材ご希望の場合は下記、「ヨコハマトリエンナーレ 2014」広報事務局までご連絡ください。

【本件に関するお問合せ】

ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局 (株式会社ユース・プランニング センター)
 担当: 浅野・池袋・岩川・鈴木
 TEL: 03-3486-0575 FAX: 03-3499-0958 E-mail: yt2014@yocpr.com



▲

FAX返信用紙 「ヨコハマトリエンナーレ 2014」広報事務局 行
⇒FAX 03-3499-0958

■本FAX返信用紙は、7月18日(金)までにご返信くださいますようお願いいたします■

■報道内覧会・記者会見・レセプション■
2014年7月31日(木) 12:30～20:00(12:30受付開始)

下記、あてはまる箇所にチェックをお願いします。

報道内覧会(12:30～18:00)に出席する

- 記者会見(14:00～)に 参加する 参加しない
- 展示作品・展示風景の撮影を希望する スチール ENG 他
- マイケル・ランディ他による《アート・ピン》の
パフォーマンスを撮影する(15:00～) スチール ENG 他

レセプション(18:00～20:00)に出席する

※会場内撮影の際は、当日配布いたします「撮影注意事項」をお守りいただきますよう、お願い申し上げます。

「撮影注意事項」の詳細が事前に必要な場合は、広報事務局までご連絡ください。

※駐車場の用意はございませんので、お車での来館はご遠慮ください。

貴社名： _____

媒体名： _____

ご芳名： _____ (他 名様)

ご住所： _____

ご連絡先： 電話： _____ FAX： _____

E-mail： _____

*取材に関する要望などございましたらご記入ください。

備考

※個人情報の取扱いについて

・個人情報の取扱いに当たっては、「個人情報の保護に関する法律」その他関係法令を遵守し、ヨコハマトリエンナーレ 2014 の記者会見
や報道内覧会の案内など広報活動に必要な範囲での利用に限定いたします。

・提供先、業務委託先等に上記個人情報を提供する場合には、適切な取扱いが行われるよう監督します。

【本件に関するお問合せ】
ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局 (株式会社ユース・プランニング センター)
担当：浅野・池袋・岩川・鈴木
TEL：03-3486-0575 FAX：03-3499-0958 E-mail：yt2014@yocpr.com



ヨコハマトリエンナーレ 2014 プレスリリース

2014年7月30日

ヨコハマトリエンナーレ 2014 がいよいよ開幕。 オープニング記者会見を ユーストリームで配信します！

今週金曜日(8/1)に横浜発の現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ 2014」がいよいよ開幕します。

開幕前日に横浜美術館会場で開催される記者会見の様態を、ユーストリームを通じて配信します。

どうぞお楽しみに！

中継時間(予定):7月31日(木)14:00~14:45

チャンネル <http://www.ustream.tv/channel/yokohamatriennale>

ヨコハマトリエンナーレ 2014 開催概要

正式名称	ヨコハマトリエンナーレ 2014 「華氏 451 の芸術:世界の中心には忘却の海がある」 Yokohama Triennale 2014 "ART Fahrenheit 451: Sailing into the sea of oblivion"
会期	2014年8月1日(金)~11月3日(月・祝) 開場日数:89日間 休場日:第1・3木曜日(8/7、8/21、9/4、9/18、10/2、10/16)
主会場	横浜美術館 横浜市西区みなとみらい 3-4-1 新港ピア(新港ふ頭展示施設) 横浜市中区新港 2-5
開場時間	10:00 ~ 18:00 [月1回土曜日(8/9、9/13、10/11、11/1)は20:00まで開場] ※入場は閉場の30分前まで
主催	横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、 横浜トリエンナーレ組織委員会
お問い合わせ先	横浜トリエンナーレ組織委員会 TEL 045-663-7232

※事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜=漢字表記)、第5回展の事業名は「ヨコハマトリエンナーレ 2014」(ヨコハマ=カタカナ表記)となります。

本リリースおよびご掲載に関するお問合せ

ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局(株式会社ユース・プランニング センター) 担当:浅野・池袋・岩川・鈴木
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 東海堂渋谷ビル 3F
TEL:03-3488-0575 FAX:03-3499-0958 E-mail:yt2014@yppcr.com



ヨコハマトリエンナーレ 2014

ヨコハマトリエンナーレ 2014 報道内覧会・記者会見・レセプション 進行スケジュール

2014年7月31日(木) 12:30～/於 横浜美術館、新港ピア(新港ふ頭展示施設)

* 本日、14:00～14:45に横浜美術館開場で開催される記者会見の様様をユーストリームを通じて配信します。

チャンネル <http://www.ustream.tv/channel/yokohamatriennale>

* なお当日は14時より一般内覧も行っております。ご取材の際はご配慮下さいますようお願いいたします。

時間	内容	会場
12:30～	内覧会受付開始	横浜美術館
13:15～13:25	Moe Nai Ko To Ba リーディングパフォーマンス 13:15 アンナ・アフマートワ「レクイエム」(ロシア語) 13:18 足立正生「記憶を超えて」(日本語) 13:21 キム・ヨンイク「言葉は、とこしえに残る」(韓国語)	横浜美術館 第3話 展示スペース (3F)
14:00～14:45	記者会見 *フォトセッションあり 登壇者: アーティストック・ディレクター 森村泰昌 (本展参加作家) ヴィム・デルボア、ギムホンソック、 大竹伸朗、毛利悠子	レクチャーホール (1F)
14:00～	一般内覧会受付開始	
15:00～15:30	マイケル・ランディ《アート・ピン》投票パフォーマンス * 本展参加作家が撮影用に順次投票を行います。 * 15:30以降も投票は継続されます。 マイケル・ランディ、森村泰昌 葛西絵里香、キム・ヨンイク、イライアス・ハンセン、 サイモン・スターリング、松井智恵、高橋悟、毛利悠子、 和田昌宏、福田美蘭、茂木健一郎、女子美術大学 学生	グランドギャラリー (2F)
15:40	新港会場行き プレスバス発 ※一般向け会場間バス運行中	西側入口
16:20～16:30	ギャラリートーク 林寿美キュレーター	新港ピア 正面入り口
16:30～16:45	やなぎみわ移動舞台車展開	
その他 パフォーマンス・スケジュール		横浜美術館 3F
16:00～16:05	Temporary Foundation(CASE-0) パフォーマンス	第5話 展示スペース
16:00～16:20	ギムホンソック「8つの息」をめぐる3つの解説パフォーマンス	第7話 展示スペース
16:10～17:00	Moe Nai Ko To Ba リーディングパフォーマンス * 新続的に50分間で実施 16:10 アンナ・アフマートワ「レクイエム」(ロシア語) 16:30 エルフリーデ・イェリネク「冬の旅」(ドイツ語) 16:50 ジット・プミサク「この手で築く地上の楽園」(タイ語)	第3話 展示スペース
17:00～17:05	Temporary Foundation(CASE-0) パフォーマンス	第5話 展示スペース
17:30 受付終了 /18:00 内覧会終了		
レセプション		
17:30～	レセプション受付開始	横浜ロイヤルパークホテル 宴会棟3階 鳳翔
18:00～20:00	レセプション ご挨拶: 横浜市長 林 文子	

※なお、8月1日(金)10:30～は、マイケル・ランディ《アート・ピン》に次の方々の方が作品を投票します。

マイケル・ランディ、森村泰昌、松井冬子、中村ケンゴ、日比野克彦、梶井+京都造形芸術大学学生

※8月2日以降も様々な方が投票を行います。詳細は公式サイトを参照ください。

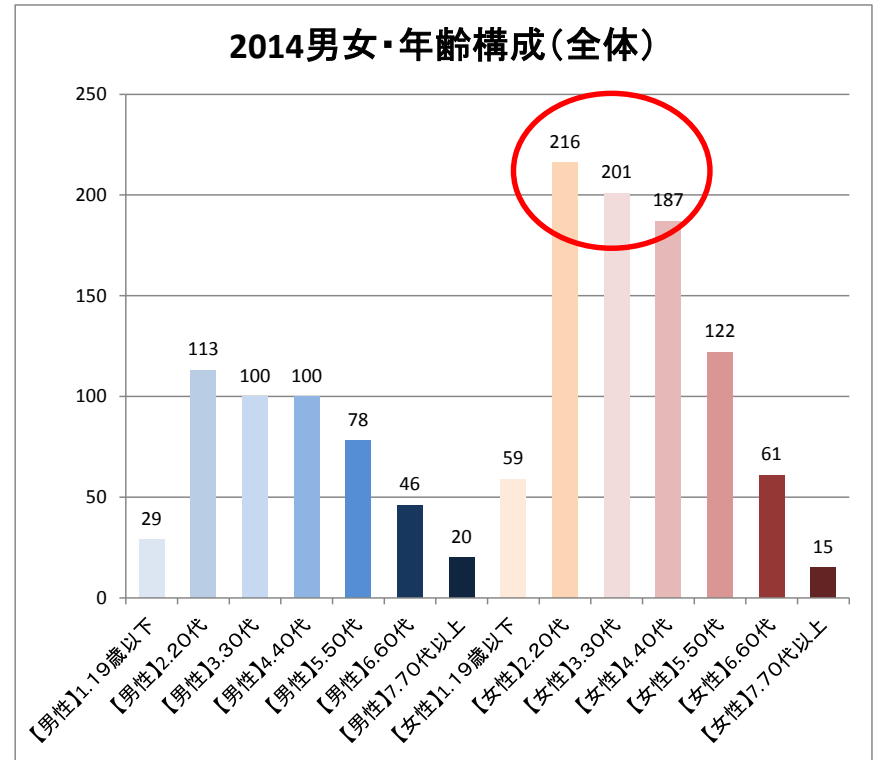
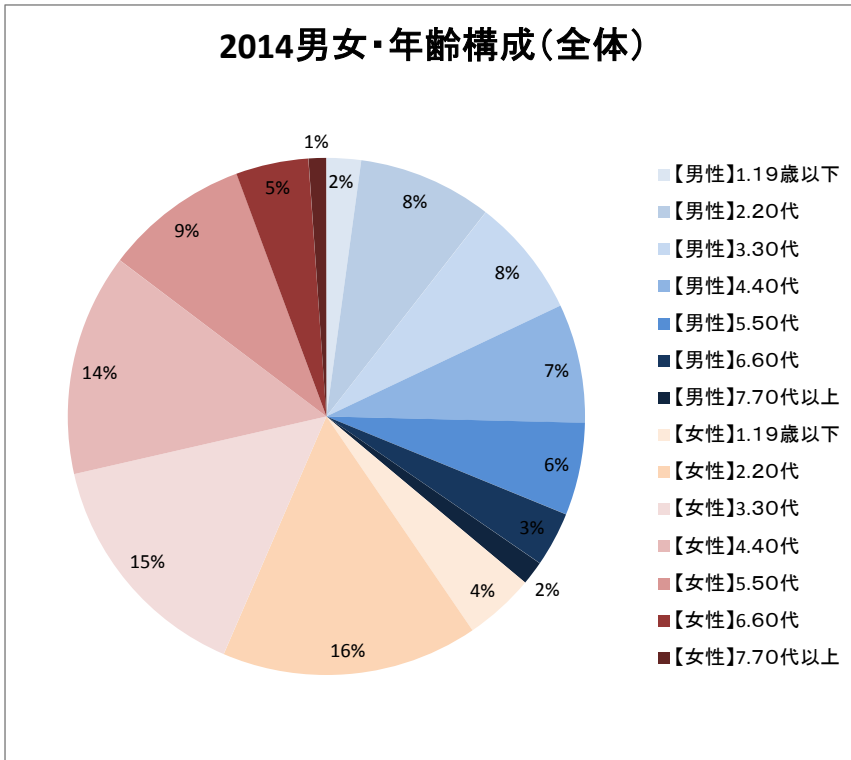
ヨコハマトリエンナーレ 2014 広報事務局(株式会社ユース・プランニング センター) 担当: 浅野・池袋・岩川・鈴木
TEL: 03-3486-0575 FAX: 03-3499-0958 E-mail: yt2014@yppcr.com

2014来場者・ターゲット分析

2016.10.31 横浜トリエンナーレ組織委員会作成

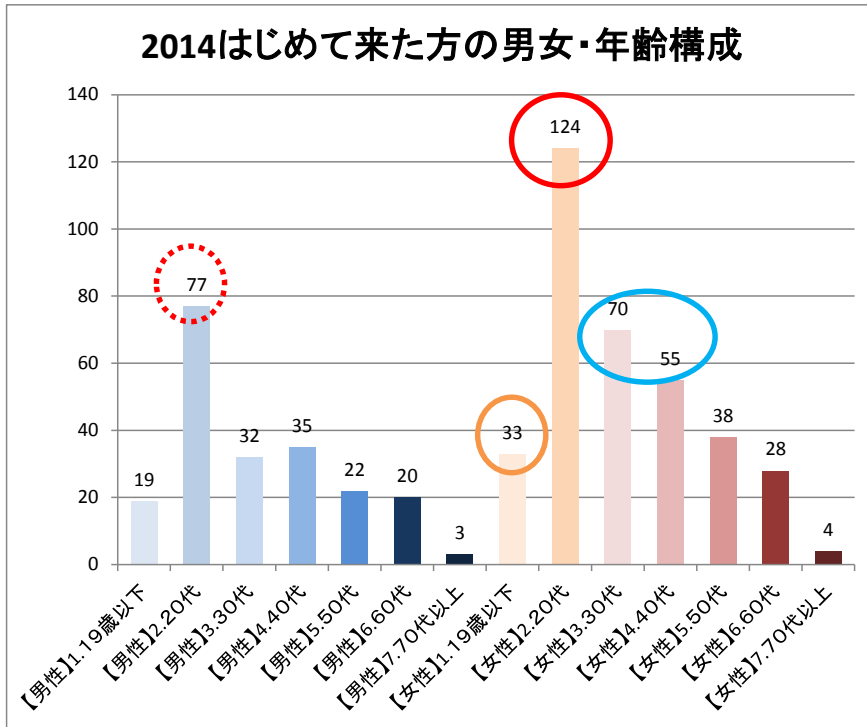
アンケート結果より分析

(n=1347)

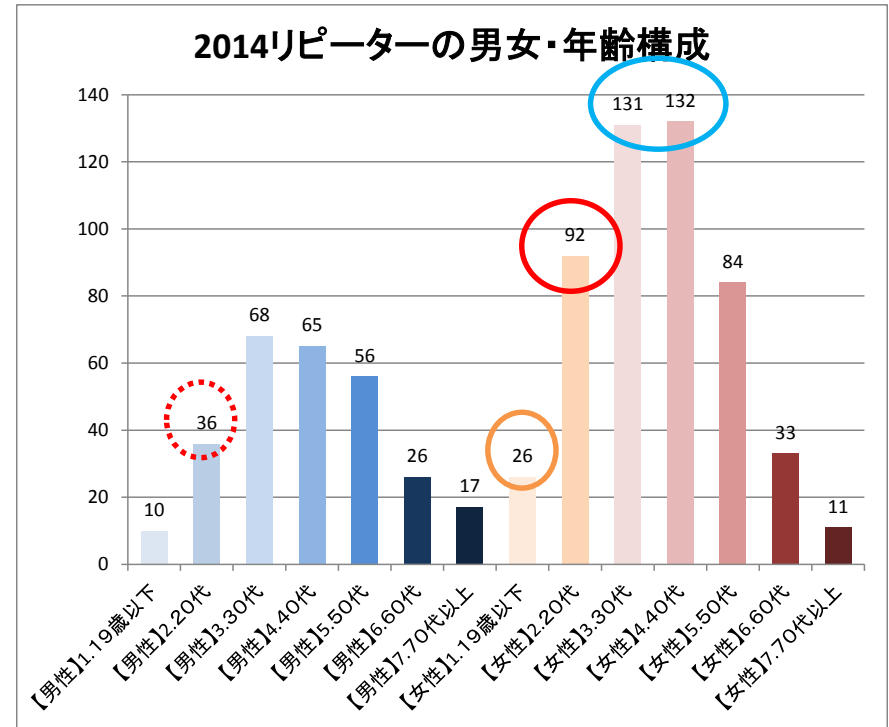


来場者全体では、20～40代女性が一番多い。

(n=560)



(n=787)

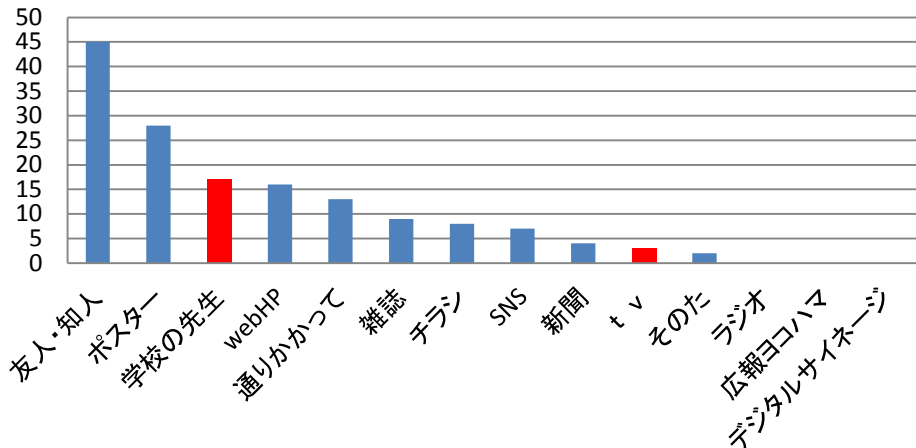


はじめて来た客層は20代女性が突出。
30・40代女性はリピーターが多い。

リピーターより初めてが多いのは男女ともに10～20代。
(1980年後半～2000年生まれ・ミレニアル世代)

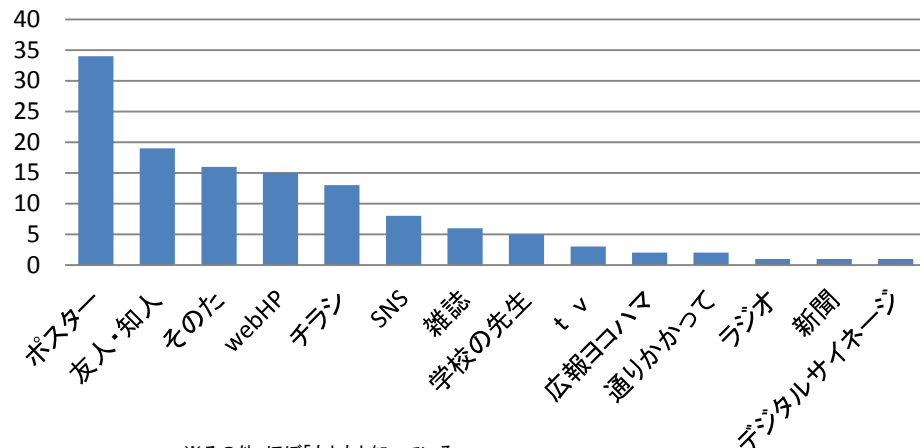
2014・20代女性・初めて

(n=152)



2014・20代女性・リピーター

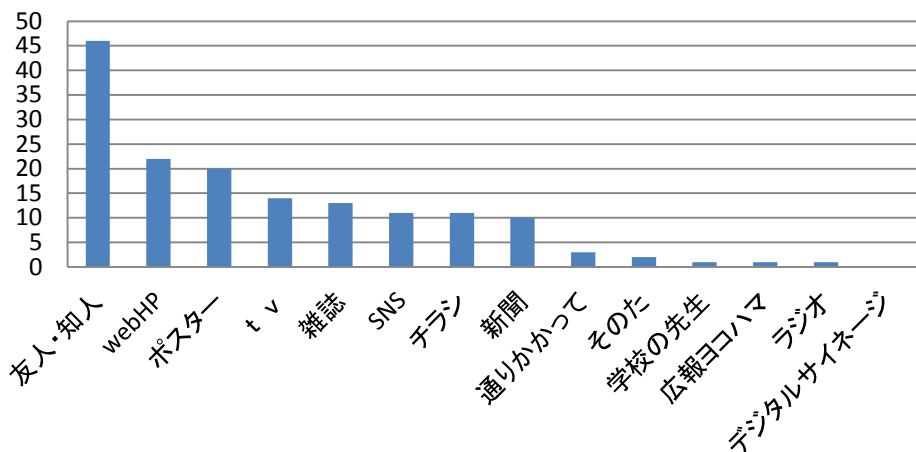
(n=126)



※その他: ほぼ「もともと知っている」

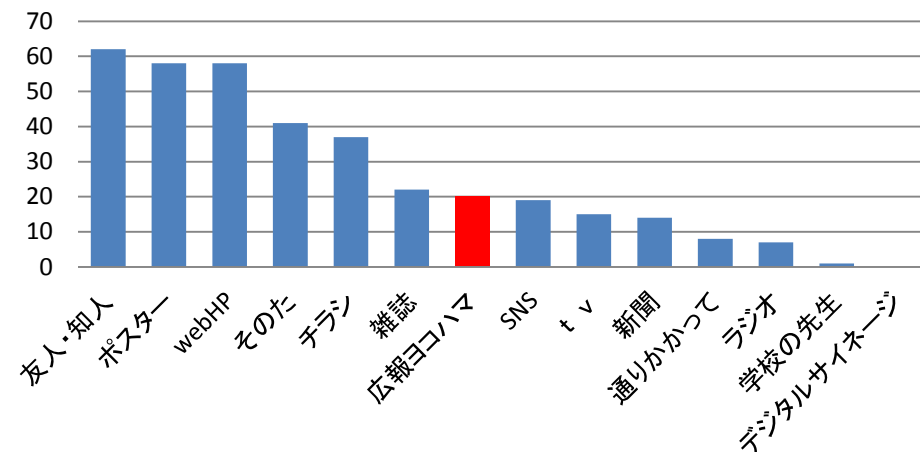
2014・30～40代女性・初めて

(n=155)



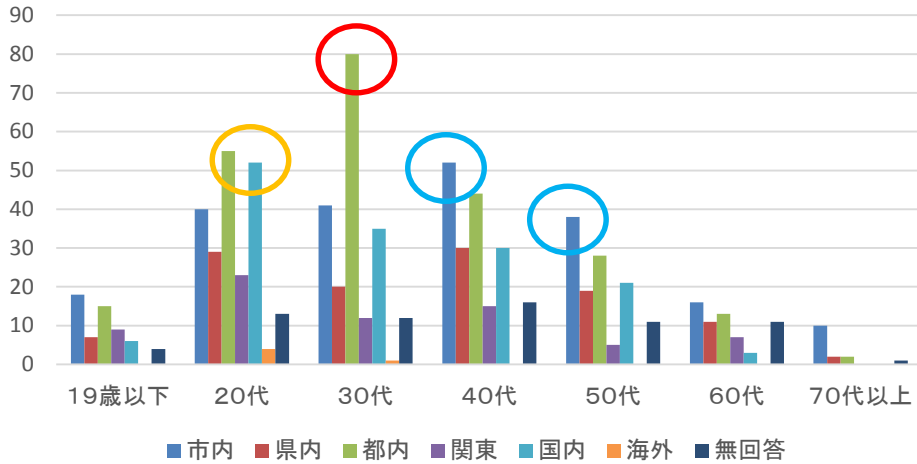
2014・30～40代女性・リピーター

(n=362)



初めて来た女性は友人や学校の先生などの勧めによって、来場している。
 ポスターでの認知はどのパターンも一律多い。
 広報ヨコハマは、30～40代リピーターで数値化するが、それ以外はほぼ0に近い。

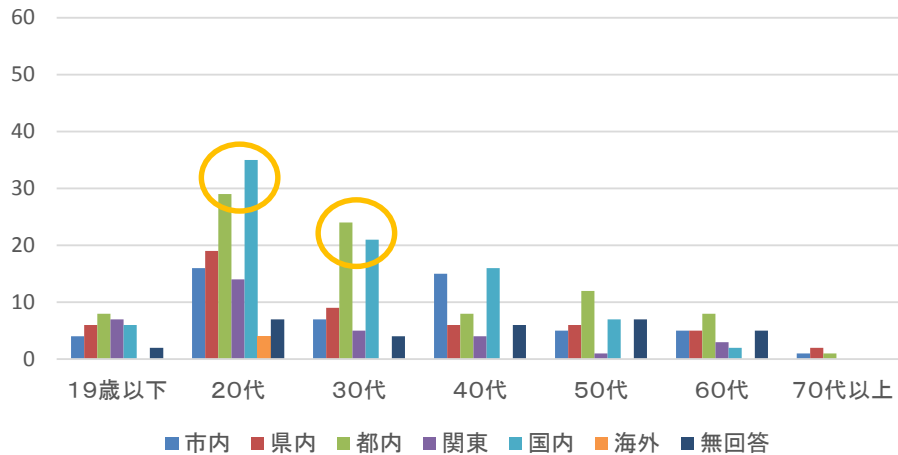
来訪者(女性)



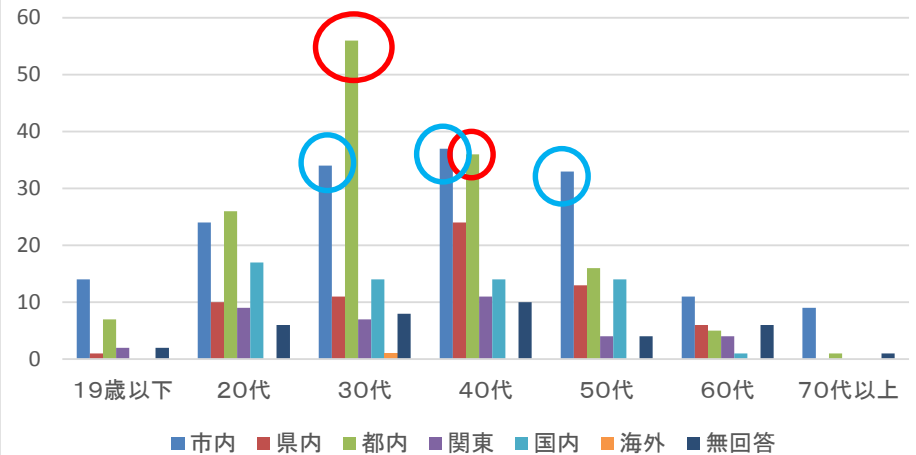
初めて来場する女性は都内・関東以外の国内が多い。

リピーターは都内30~40代女性、市内30~50代女性が多い。

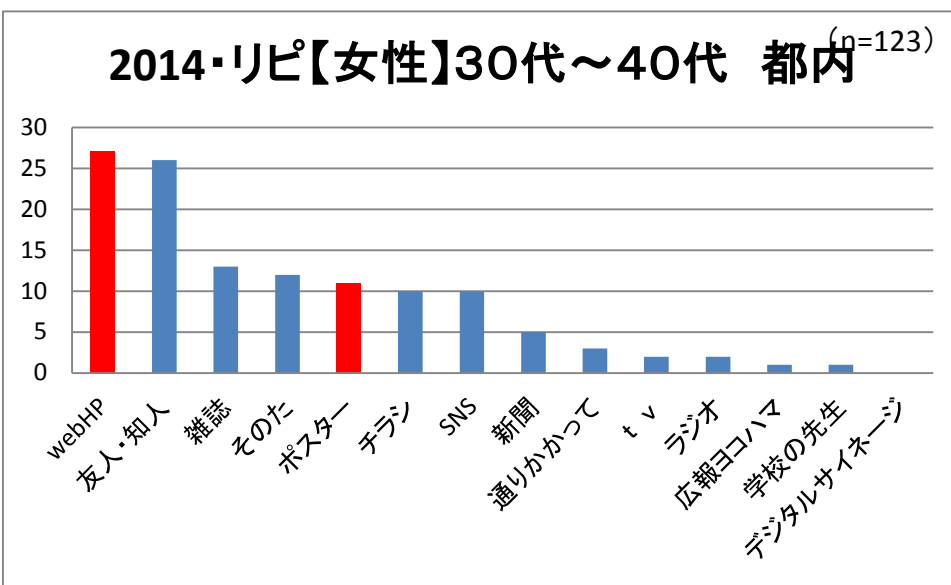
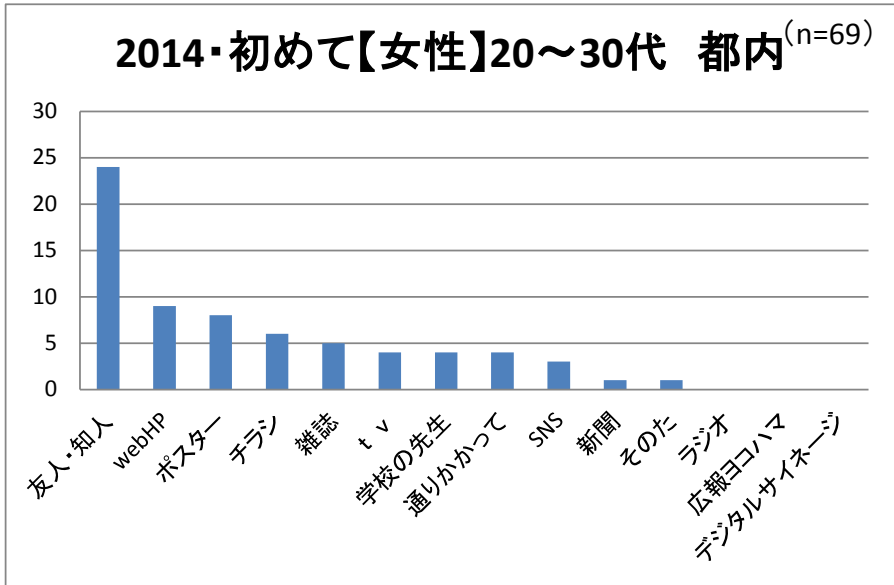
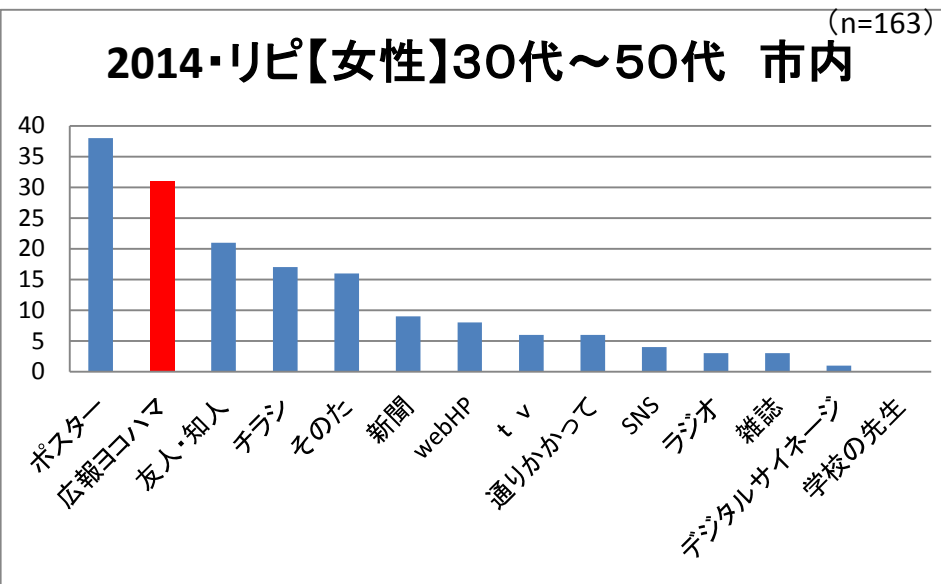
2014がはじめての来訪者(女性)



リピーター(女性)



- ・市内リピーター: 30~50代女性はポスターと広報ヨコハマで認知。
- ・都内リピーター: 30~40代女性はWEBから。ポスターは一定数あるものの、意外に低め。(市内が多いので実際の配架数の問題?)
- ・初来場(都内在住): 20~30代女性は、あまり特徴なく、ほぼロコミ。



2017 ターゲット想定

★首都圏在住 20～30代女性

項目	低	←	→	高
アートに興味	なし	ふつう	少しある	ある
その他文化的活動に興味 (演劇、音楽、園芸 etc.)	なし	ふつう	少しある	ある
トレンドに敏感	無頓着	ふつう	少し興味がある	敏感
世界ニュースに関心	無関心	ふつう	気になる	関心
自己啓発	したくない	どちらでもない	少ししたい	したい

アートや文化、世界のニュースなどに少しでも興味があり、自分を高めたいという意識が高い20-30代女性を特にターゲットとしたい。